

# 八幡小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

- ①基礎・基本の知識・技能を身につけさせるための指導の充実
- ②考える力・書く力を育てるための指導の工夫
- ③主体的・対話的で深い学びができる授業の工夫。

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長



### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・漢字の読み書きや計算力はある程度定着してきている。 ・自主的に辞書を使おうとする児童が増えてきた。	・宿題を毎日提出する。 ・基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけている。	・宿題提出率90%。 ・漢字・計算テスト80点以上の児童が学級90%以上。	・言語環境を整える。(授業中の言葉遣い) ・教科ごとの正しい用語を使って説明できるようにさせる。 ・日記のテーマを決めるなど、実践している活動をより有効なものとする。	・学習規律について、校内で共通理解し、掲示して授業への姿勢を整えた。た。 ・週1回の補充授業で復習を中心に指導した。 ・漢字計算テストに向けて反復練習をした。	・漢字計算テストについては、80点以上の児童が学級で90%について達成できていない学年がある。 ・宿題の提出率は90%達成している。家庭学習時間が増えた児童が50%
課 題 ・語彙力には課題があり、読解力で個人差が大きい。	・モジュール時間の活用(読書・ドリル学習) ・校内漢字・計算テストの実施。・学習規律の統一 ・学習内容が定着しにくい児童への補充指導。 ・辞書の活用を継続して進める。・デジタル教科書等の活用	・宿題の内容を工夫する。 ・漢字・計算テストに向けて反復練習をする。 ・補充指導を週1回程度行う。		評価 B ・補充学習の取り組み方について、時間・内容等の見直し。 ・視覚的教材(デジタル教科書など)の有効活用し、児童の理解力を向上させる。 ・今実践していることの内容を工夫改善して効果的な取り組みを増やしていく。	次年度における改善事項

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・授業中に理由や根拠を述べて発言できることが多くなりつつある。	・よく聞き、よく読んで内容を理解できる。 ・友達の話を聞いたり、自分の考えたことをもとにしたりして、根拠や理由を示しながら表現することができる。	・ステップアップテストの結果が4月と10月の比較で向上している。 ・学校評価アンケートで、読む、聞く、書く、話すことについて80%以上の児童が達成したと回答。	・新聞記事を使った問題や、活用問題に週に1回取り組んでいく。 ・書く活動を授業時間に確保する。	・新聞記事等の読解問題に継続的に取り組んだ。 ・感想や、意見を書く機会を増やした。 ・意見を言う時には、理由や根拠を話す事を継続して行った。	・学校評価アンケートでは、読む・聞く・書く・話すの内容について、話す・聞くことに関して、昨年の58%から79%に児童の達成感が上昇した。聞くことに関しては、90%以上の児童が達成した。 ステップアップテストの結果が昨年と比べて向上している
課 題 ・人の話を聞くことや、自分の考えや文章から読み取ったことを書くことについて課題がある。	・ICT機器、ホワイトボードの活用をする。 ・自分の意見や感想を短くまとめて書く機会をとるなど表現力を身につけるための指導の工夫をする。 ・活用問題を取り入れる。	・ICT機器等の使用を月1回報告する。 ・振り返りを1日1回以上はさせる。 ・授業力向上のため、研究授業を行う。 ・月一回はOJTを行い、お互いの指導力の向上を図る。		評価 B ・共有データを活用し、教材などの共有化を行い、指導方法を工夫改善する。 ・OJTを積極的に活用し、授業力の向上を図る。 ・書く力をつけるため、学年に応じた段階的な書き方の指導を行う。	次年度における改善事項

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・家庭学習の習慣はある程度定着し、与えられた課題にはまじめに取り組む。 ・進んで読書をする児童が増えてきた。	・なぜ、どうしてと思うことを自ら調べようとする等、学習をはじめ学校生活に意欲を持つ。 ・予習や復習を家庭学習で行う。(学年×10分)	・家庭学習時間が守れた80%以上。 ・家庭読書月4冊以上。	ペア学習、グループ学習の役割分担を明確にし、何のために、何をやるのかを各自がつかめるようにする。 ・授業で学習したまとめ学習として自分の目標を持って自主学習に取り組めるようにする。	・授業でのめあてを持ち、学習の振り返りをし、次への学習に生かすことを継続した。 ・生活チェックをして、家庭学習や、読書の時間の見直しを個々にさせ、生活習慣の改善を図った。	・目標の80%には達していないが、目的を持った自主学習に取り組む児童が高学年になるほど多かった。 ・家庭学習時間は80%の児童が守ることができた。 ・指導方法の見直しを図り、改善したと回答する教員が100%
課 題 ・自ら課題を見つけたり解決したりしようという意欲はまだ低い。 ・基本的な生活習慣や家庭読書の習慣がまだ十分には身につけていない。	・八幡スタンダードを作成し、主体的な学習過程の確立を図る。 ・授業に一人学習、ペア学習、グループ学習を効果的に取り入れる。 ・授業の中で「ふりかえり」を生かせるようにさせる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し予習や復習・家庭読書が進んでできるようにさせる。	・学期に1回「やわたっ子の生活」による生活チェックをし個別指導に生かす。 ・学年だよりや学校だより等で児童の意欲向上を賞賛する。 ・自主学習ノートを活用し、80%以上の児童が目的を持って自主学習に取り組める。		評価 B ・学校では読書に親しんでいる児童が多いので、家庭でも読書に親しむ児童を増やす。 ・学習の手引きによる6年間を通した継続的な指導ができるようにする。 ・振り返りの時間の確保ができる授業を行い、学びの質を向上させる。 ・グループ学習、全体学習、個別学習などが、効果的に活用できる授業作りをし、児童が主体的に学べる授業作りをする。	次年度における改善事項

## 平成30年度 学力向上ロードマップ

